

2016 年度

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

合同成果発表会抄録集

平成29年1月29日（日）



目 次

NO	演 題 ・ 所 属 ・ 氏 名	頁
1	看護師と看護学生の乳がん予防行動の知識と影響要因について 旭川医科大学 医学部看護学科 赤澤 春香、角田 萌、地家 優美子	3
2	特定保健指導における行動目標の設定と支援の工夫—保健師のアンケート調査から— 旭川医科大学 医学部看護学科 染谷 奈瑠美、中谷 美穂	3
3	旭川市高校生に必要な性教育とそのありかた 旭川医科大学 医学部医学科 5年 渋谷 夏姫	3
4	初来日の外国人が日本を楽しむためのガイドブック “TRAVELING TIPS FOR JAPAN” 東海大学 国際文化学部 デザイン文化学科 山本 絵理	4
5	固有物をパッケージした色見本 “固有色を更新する意義と実践” 東海大学 国際文化学部 デザイン文化学科 川上 桂	4
6	今の旭川市を襲う人口問題と対策 ～旭川の魅力を届ける～ 旭川大学 経済学部 江口ゼミナール 泉田 真吾、今村 勇斗、川崎 隼斗、齋藤 晶仁、 久保 奨、瓶子 遼太	4
7	東日本大震災被災地に関わるボランティア活動報告 旭川大学 ボランティアサークル円陣～Engin E 高橋 遥香、野島 亮、阿部 信太郎、田中 光留、成田 明裕、加藤 沙也佳 権 祿勲、山下 雄大、浜田 由真、宮下 桂奈	5

NO	演 題 ・ 所 属 ・ 氏 名	頁
8	レーザーを利用した血液中のヘモグロビン濃度変化可視化における時間分解能の向上 旭川工業高等専門学校 生産システム工学専攻 2年 金山 拓也	5
9	分子の左右を見分け色調変化を示す高分子の合成と評価 旭川工業高等専門学校専攻科 応用科学専攻 2年 間藤 芳允	5
10	地域における異世代間交流のあり方に関する検討 ～よさこいを取り入れた実践を通して～ 北海道教育大学旭川校 教員養成課程 生活・技術教育専攻（家庭分野） 鈴木 あやめ	6
11	小学校社会科における世界に関する学習の新カリキュラムの提案 ～総合的な学習の時間との横断的な学習を視点に～ 北海道教育大学旭川校 教育発達専攻 水谷 海智	6
12	地域密着型ボランティアサークルの魅力 北海道教育大学旭川校 教育発達専攻 教育学分野3年 ありんこくらぶ 大西 亜里紗	6
13	旭川市内における異世代交流の推進 あったかいね、あさひかわ ～Discover Asahikawa～の実績報告 学生自主組織はしっくす 旭川大学 看護科 1年 川添美来、久保田つくし、澤野真悠子、山口朋美	7

演題発表 1 13:30～15:40

1 看護師と看護学生の乳がん予防行動の知識と影響要因について

所 属：旭川医科大学 医学部看護学科
氏 名：赤澤 春香、角田 萌、地家 優美子

A大学医学部看護学科学生と看護師の女性を対象に乳がんの予防行動とその認識および学生時代に得た知識との関連性を明らかにするために調査を行った。調査票は回答の不備を除く243名を解析した。(有効回答率60.8%)。乳がん予防行動の知識は、学生3学年以上で有意に増加した。乳がんの予防行動は、学生は学生が増すとともに自己検診実施率が、看護師は経験年数とともに乳がん検診受診率が有意に増加することが明らかとなった。

2 特定保健指導における行動目標の設定と支援の工夫

－保健師のアンケート調査から－

所 属：旭川医科大学 医学部看護学科
氏 名：染谷 奈瑠美、中谷 美穂

市町村の保健師が高血圧・高血糖・脂質異常症を有する住民に行っている特定保健指導について、その内容や方法、工夫を明らかにするために調査を行った。31市町村に調査票を配布し、21市町村56名から回答を得られた(回収率43.1%)。特定保健指導における目標設定の工夫として、保健師は視覚的に理解を促すとともに対象者の関心を促すなど個別対応に心がけているが、対象者との関係で様々な難しさを感じていることが明らかになった。

3 旭川市高校生に必要な性教育とそのありかた

所 属：旭川医科大学 医学部医学科 5年
氏 名：渋谷 夏姫

日本では妊婦の約6人に1人が人工妊娠中絶を選択しており、旭川ではさらに高く妊婦約3人に1人となっている。また、人工妊娠中絶における10代の割合も全国的に比べて高い。性感染症についても、全国に比べ罹患率が高いという報告がある。

新たな教育の形としてpeer education(仲間教育)という手法を用い、旭川市高校生に対して性教育を行った。その後のアンケート調査から、旭川市高校生に必要な性教育とそのあり方について考察する。

4 初来日の外国人が日本を楽しむためのガイドブック

“TRAVELING TIPS FOR JAPAN”

所 属： 東海大学 国際文化学部 デザイン文化学科
氏 名： 山本 絵理

初来日の外国人観光客に向けて日本を理解するためのガイドブックの制作を行いました。旅行中のマナーブックとしての役割だけでなく、日本人とのコミュニケーションツールとなることを目的としています。ユニバーサルデザインの観点から、どんな国の人にも分かるよう絵や図をメインとした構成、言語表現に頼らないことを意識して編集し日英版を制作しました。掲載内容はメインとなる「観光」、広大な敷地やアイヌ文化を紹介する「北海道」、日本人の性格や年間のイベントを紹介した「日本人」の3つのカテゴリーに分けて展開しました。

5 固有物をパッケージした色見本 “固有色を更新する意義と実践”

所 属： 東海大学 国際文化学部 デザイン文化学科
氏 名： 川上 桂

林檎の赤や空の青など、固有色には色に名前を与えることで人の記憶や共感覚と結びつき、色彩の元になったモノを想起させる効果があります。自然染料主体の色文化が中心であった日本では海外の色彩感や技術の進歩に従って、この固有色の文化が廃れていった背景があります。そこで色彩が本来何に基づいて生まれるものなのかを確認でき過去の文化として固まっている固有色の更新を促していけるツールをととして、多様な固有物を内包する北海道の文化から色彩の元を連想させる色見本のインスタレーションと Web ツールを制作しました。

6 今の旭川市を襲う人口問題と対策

～旭川の魅力を届ける～

所 属： 旭川大学 経済学部 江口ゼミナール
氏 名： 泉田 真吾、今村 勇斗、川崎 隼斗、齋藤 晶仁、久保 奨、瓶子 遼太

旭川市の人口は25年後に30万人を切ると予測されている。人口の減少は地域社会の元気を損なう大きな要因である。地域から人の流出を止め、都市部から人を吸引することが旭川の緊急の課題だといえる。それには地域の魅力発信と魅力づくりが不可欠になる。そこで江口ゼミでは、旭川の未来を考えるための聞き取り調査を行い、271人から回答を得た。またそれを基に、49人の市民の方々と25年後の旭川を考えるワークショップを実施した。当報告では、調査の結果とワークショップで得た意見を分析し旭川の魅力を再確認したい。

7 東日本大震災被災地に関わるボランティア活動報告

所 属： 旭川大学 ボランティアサークル円陣～EnginE～

氏 名： 高橋 遥香、野島 亮、阿部 信太郎、田中 光留、成田 明裕、加藤 沙也佳
権 祿勲、山下 雄大、浜田 由真、宮下 桂奈

私たちは、2011年から岩手県宮古市内で計12回の活動を行ってきました。昨年秋には社会福祉協議会の要請を受けて市内で台風被害を受けた地域の泥出し作業に従事しました。震災からほぼ6年経ちましたが人々の「心の復興」はまだ時間がかかるように感じています。現在は、「災間の時代」と言われています。今回は宮古市の6年の歩みと学生ボランティアとしての関わりについて報告します。今回の活動は3月11日から15日の予定です。

8 レーザーを利用した血液中の

ヘモグロビン濃度変化可視化における時間分解能の向上

所 属： 旭川工業高等専門学校 生産システム工学専攻 2年

氏 名： 金山 拓也

従来から、レーザー光照射下の生体において観測される「スペックル」と呼ばれる斑点状模様を利用したヘモグロビン濃度変化の可視化法が国内外の研究者により開発されている。今回、2波長のスペックルパターンに時間平均、空間平均、メディアンフィルタリングといった画像処理を適用しスペックル低減する事でヘモグロビン濃度情報を分光計測法に基づき取得し、ヘモグロビン濃度変化解析の時間分解能の改善を試みたので報告する。

9 分子の左右を見分け色調変化を示す高分子の合成と評価

所 属： 旭川工業高等専門学校専攻科 応用科学専攻 2年

氏 名： 間藤 芳允

我々の身の回りには様々な物質や製品には光学異性体が数多く利用されている。しかし、光学異性体はそのキラリティーに依存して異なる生理作用を示すため、キラリティーを識別することが非常に重要である。本研究では、側鎖にL-フェニルアラニンから誘導したポリ（フェニルアセチレン）を合成し、そのキラル識別能を評価した。その結果、キラルカルボン酸のキラリティーを色調変化から目視で識別できることが明らかになった。

10 地域における異世代間交流のあり方に関する検討

～よさこいを取り入れた実践を通して～

所 属： 北海道教育大学旭川校 教員養成課程 生活・技術教育専攻（家庭分野）

氏 名： 鈴木 あやめ

現在社会では、少子高齢化が加速しており、その影響で核家族世帯が多くなっている。厚生労働省が2016（平成28）年7月に発表した「国民生活基礎調査」によると、核家族が全体の60%、三世帯家族は全体の6%しかないことが分かっている。そこで本研究では、北海道の地域文化として根付いている「よさこいソーラン」をテーマとして、小学生と高齢者の異世代間交流の可能性とその意義について、実践的な取り組みを通して、社会教育の立場から明らかにすることを目的とした。

11 小学校社会科における世界に関する学習の新カリキュラムの提案

～総合的な学習の時間との横断的な学習を視点に～

所 属： 北海道教育大学旭川校 教育発達専攻

氏 名： 水谷 海智

これからの子どもたちに求められる異文化理解や国際理解の力を養っていくために、小学校社会科における世界に関する学習の新たなカリキュラムを提案する。そこで、世界に関する学習について特に世界の諸地域の特徴や特色について学ぶ地誌学習についての様々な主張を整理し、同じ問題意識のもとで先に研究されている実践を考察しながら、実際の現場で行うことができるような小学校社会科における世界に関する学習の単元を提案する。

12 地域密着型ボランティアサークルの魅力

所 属： 北海道教育大学旭川校 教育発達専攻 教育学分野3年 ありんこくらぶ

氏 名： 大西 亜里紗

私が今年度の代表を務めている地域密着型のボランティアサークル「ありんこくらぶ」は、主に教育大学周辺の川端地区、みずほ地区、近文地区で行われるお祭りやイベントの企画・運営のお手伝いをしています。また、旭川周辺の鷹栖町や比布町の子どもたちの学習の補助や通学合宿にも参加し、学校と地域の連携の大切さを学んでいます。教師を目指す学生が子どもとの関わりを通して、日々成長していけるサークルを目指しています。

13 旭川市内における異世代交流の推進

あったかいね、あさひかわ ～Discover Asahikawa～の実績報告

所 属： 学生自主組織 はしっこす 旭川大学 看護科 1年

氏 名： 川添 美来、久保田 つくし、澤野 真悠子、山口 朋美

学生自主組織はしっこすは、旭川の活性化を目的とした異世代交流事業として、平成28年12月24日に「あったかいね、あさひかわ」を実施した。志を同じく、旭川市の活性化に貢献することを理念においている市内の中高生団体所属者や、有志の高校生達と共に9月より会議を重ね、イベントの企画運営を行った。当日の運営にはボランティアを含め、市内中高生100名が参加し、市内学生の異世代交流の目的が果たされた。



一般社団法人 旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

連絡先: 旭川市1条通8丁目108 フィール7階

電話: 0166-26-0338

URL: <http://www.awbc.jp/>